

茅ヶ崎発、技術も環境も仲間も、世界中のどこにも負けない



マーケット企画部

飯田剛弘

南オレゴン大学卒
Phi Kappa Phiメンバー



開発部

趙明春

中国吉林大学
大学院数学部卒

世界を体感し、改めて日本から世界に挑みたくなった。

飯田：「アメリカの大学に入る時に、まさか日本のソフトウェアの会社に勤めるとは思わなかった…。卒業式の3ヶ月前辺りから、毎週2-3の電話やメールもいただいていた。それも、『全て、ワーキングビザを出すから働いてみないか？』『とりあえず来てみないか？』という嬉しいオファーばかり。しかし、その一方で、海外生活を5年近く経験してきて学んだ重要なことを思い出した自分もいました。重要なこと、それは「自分という存在」。具体的には「自分の意見」や「自分のナショナルリティー」です。せっかく日本人として生まれ、一回の人生だから単純に、卒業後アメリカで勤めるのではなく、あえて、日本の企業に勤め、会社と共に成長し、世界で挑戦したいと考え始めました。そんな時に、ふと思いついたのが、いつも楽しみに見ていたメルマガ「オラおらOracle」を発行している会社、『インサイトテクノロジー』だったのです」

飯田剛弘は「オラおらOracle」の熱心な読者ではあった。しかし、実はインサイトのHPはその時初めて見たという。「技術志向ではあるが偏屈な会社というイメージ」。これが、インサイトテクノロジーの第一印象であったと話す。しかし、改めて見てみると、アメリカにないコアな情報発信に魅力を感じていくという。そしていつしか、自身を慮らしたコアな情報や技術がどのようにしてうまれるのか、その現場はどんなところなのかという部分に惹かれ、最終的にインサイトテクノロジーを自身のステージに選択した。

飯田：「入社して2年間はプログラマーとしてみっちり技術や知識を叩き込まれました。特に私は周りの人より優れたプログラミング技術を持っているわけではなかったのに、製品コンセプトやアーキテクトを決定する能力を意識して伸ばしました。しかし、いまでもプログラミングを止めたわけではありません。現にインドに行っている時は、バリバリにコードを書いていた（笑）」

飯田がインドという場所で得たもの

インサイトテクノロジーの特徴を語る上で、飯田のコメントにも登場した「インド」は欠かすことができないポイントだ。遡ること3年前、代表取締役社長の小幡の友人が、自身の祖国インドで立ち上げた新会社のビジネスにインサイトテクノロジーも参画している。飯田はそこで、ある重要任務を遂行

すべく派遣されたのである。

飯田：「それが『perfSystems』という会社です。インドと聞くと、多くの方が「オフショア開発」をイメージされると思いますが、当社のミッションは、『プロフィットシェアを目指せる新会社の育成』。今年、脆弱性モニタ製品を新たにラインナップに加えたのですが、R&Dから開発に至るまで100%インドで『行いました。インド』に『行かせたのではなく、日本から社員も送り込みインド』で『行ったのです。このやり方には様々なメリットがあります。まず楽しい。夏の運動部の合宿みたいなイメージです。モノづくりの理想的な形だと思えます。それから、グローバルマーケットを日本の開発者たちにアピールできる。この醍醐味はここでしか味わえないと思えますね」

飯田のコメントの通り、「ものづくりの理想郷」が着実に具現化している一方で、克服すべき課題も多いと飯田は語る。

飯田：「コミュニケーションの問題は、全員がクリアしているわけではありませんから、珍騒動(?)から大きな課題までいろいろあります。しかし、いまは根性で結果オーライにしています。現場で飛び交うインド英語もはつきり言って難しいですが、私たちが目指しているのは、システムをきちんと稼働させること。技術は世界共通ですから、きちんと成果を導き出していけば、みんな納得してくれます。それ以上に改めて感じることは、このような大きなプロジェクトを任せられた会社の懐の大きさ。これからインサイトに来られるみなさんも、いまは、自分の経験や技術に自信がなくても、モノにする、チャレンジする意欲があれば絶対に大丈夫ですし、面白いフィールドがあるということをお伝えしたいですね」

飯田が目指す「将来の飯田像」

では自身の将来について、飯田はどのように考えているのだろうか。

飯田：「当社は明らかに普通の会社とは違います。今後アメリカ、中国など世界への挑戦が待っています。仕事でチャレンジが出来ることほど人を伸ばす材料はないと思えますし、自分と企業が共に成長し、世界へ挑む！ワクワクしますね。だからこそ、世界で通用するスキルを持つことが、目標です」先日、待望の子供も生まれ、自分自身の責任をヒシヒシ感じていると話す飯田。私たちは飯田のように、みなさんの技術よりも、仕事に対する情熱や大きな夢を持っている仲間をいつでも歓迎していきたいと思う。

最先端技術と茅ヶ崎の海と社長小幡の人間力と

エンジニアであれば、「その企業がどのような技術に取り組んでいるのか」「その環境で自身に何が出来るのか」などが、転職先を選択する上で大きなウエイト占めるだろう。そうしたなか、趙明春がインサイトテクノロジーを選んだ決め手となったのが、技術面とロケーションであったという。

趙：「これまで以上に自分の技術力を磨きたいという一心で転職を決めたのは、1年半前でした。そうしたなか、転職活動中に見た当社のホームページ上の求人広告を見た瞬間、ここに行きたい!!という衝動にかられました。中でも目を引いたのは、Oracleのパフォーマンスチューニングツール Performance Insight に関する説明と、アメリカや中国などでグローバルなITビジネスを展開しているという点。さらに、海の風景が広がる一枚の写真。本社茅ヶ崎が写っているものも衝撃的でしたね(笑)。こんな爽やかな環境で仕事がしたい!!インサイトへの想いは日に日に強くなっていきました」そして、実際にインサイトテクノロジーの一員となった趙にとって、大きな出会いが待っていた。代表取締役社長の小幡との出会いである。

趙：「インサイトに入社し、小幡社長と出会ったのは自分の人生で一番ラッキーなことでした。『夢を持つ人間になれ!』社長のこの一言が、今でも私自身の原動力になっています。『一人ひとりの個性をそのまま生かして、目標に向けてチャレンジできるようにチャンスを与える』この社長が打ち立てた方針のもと、入社1年目であるにも関わらず、中国で開かれた「中国データベース学会議」まで出席させてもらうことができました」

全く新分野での挑戦。しかし不安はなかった

どんな人でも、「全く足を踏み入れたことのない世界に行く」という場面を迎えた時、大きな期待感とともに不安にもかられるものである。趙も例外ではなかったかも知れない。しかし、インサイトテクノロジーは、これまでにもたくさんの未経験者を迎えてきた実績があり、技術よりもまずは仕事に対する情熱や意欲を1人ひとりが持っていることの大切さを知っている。だからこそ、メンバー間のサポート体制も充実している。

趙：「入社後配属になったのが、開発部のバイナリチーム。実際の業務では、C言語でOSのKernelやNetworkに関するプログラミングがメインの仕事でした。これまで経験してきた業務、技術とはまったく違った内容でしたので最

初は苦戦しました。しかし、まわりの先輩たちのおかげで、いつの間にか、技術はもちろん、モノの考えから柔軟な発想という部分まで身に付いていました」

また、前述で趙が話していた、小幡の言葉『一人ひとりの個性をそのまま生かして、目標に向けてチャレンジできるようにチャンスを与える』が、実際に現場で浸透しているカルチャーも、趙にとって魅力的であり、インサイトテクノロジーの今日の躍進を象徴している一つであると考えている。

趙：「インサイトのカルチャーを一言で例えるなら、『自由に意見が語れる、個人個人の発想が生かされる』。これに尽きますね。ここでは、例え新人であっても、会社のため、自分自身のスキルアップのために力が発揮できるチャンスを与えられるんです。実際に現場にいますと、このインサイト独特の社風を日々感じることが出来ます。また、待遇面でも本当に社員をケアする制度やイベントが盛り沢山で、去年の社員旅行では、沖縄の石垣島に行って南の島の風景を満喫してきました。オンもオフも常に社員1人ひとりのことを考えてくれる。だからこそ、私自身も会社をもっと大きくなるためにがんばろう!という気持ちになれるのだと思います」

もっと早くこの会社に出会いたかった

飯田同様に、これからのインサイトテクノロジーを担っていく趙。改めて、インサイトでのこれまでのキャリアを振り返った。

趙：「時々こう振り返ることがあります。『5年前にインサイトに入社していたら、いまの自分はようになっていたのだろうか?』と。いまさらですが、もっと早くインサイトに出会えればと思うんです(笑)。そもそも、それだけの気持ちになれることが、当社の魅力だと思います。また、実際に現場に立ってみて、技術だけでなく色々な面で本当の自分を見つけることができました。やりがいを感じる数多くの仕事と、もちろんシビアな面もあるものの、仕事を楽しんでいることができる環境を常に提供してくれるインサイトテクノロジーに改めて感謝!です(笑)」

今回は飯田と趙という2人のメンバーの言葉を通じて、インサイトテクノロジーについて、みなさんに紹介した。しかし、私たちの魅力はまだまだ伝えきれないと私たちは考える。是非一度、本社茅ヶ崎でみなさんとお会いしたい。きっとこの環境に魅了されると確信している。

データベースエンジニア

仕事内容 ネットワークパケット分析 / ログ解析BI / DB2、SQL Serverに対応した新商品開発 独自開発した言語を使用することで効率的な開発を実現しています。そのためアイデアの具現化もスピーディーに行え、ミーティングの会話が形になることもしばしば。そんな環境の中で、あなた自身が「アイデア発信人材」となることができ、形にする面白さや創り上げる喜びを味わうことができます。

応募資格 年齢32歳位まで。DB2、SQL Server経験者。あるいはシステム系のCプログラマー経験者(あるいは、それを目指す人)

Cプログラマー

仕事内容 ネットワークパケット分析 / ログ解析BI / DB2、SQL Serverに対応した新商品開発

応募資格 年齢32歳位まで。DB2、SQL Server経験者。あるいはシステム系のCプログラマー経験者(あるいは、それを目指す人)

以下の経験をお持ちの方歓迎します。Webデザイン、Webアプリ開発経験 / PHP、JavaScript、JSPいずれかの言語による開発経験

募集要項

給与 年俸制400万~1200万円 経験、能力を考慮の上で決定します
勤務地 本社：茅ヶ崎 / クリエイティブな仕事にはやすらぎも必要、ということで、社長がエンジニアのために選んだ場所が茅ヶ崎です。社員の9割が茅ヶ崎に移り住んでいるため(もちろん転居費用支給)、通勤は自転車や徒歩。通勤ラッシュなどの余計なストレスから解放され、開発に専念できます。仕事に疲れたら海を眺めたり散歩をしたり。新しいアイデアが生まれることも! 沖縄事業所も開発・テストセンターとしてオープン予定
勤務時間 フレックスタイム制 標準労働時間等9:00~17:00(標準労働時間7時間)
休日休暇 完全週休2日制(土・日)、祝日、年末年始、有給休暇
待遇 交通費全額支給、社会保険完備、茅ヶ崎移住に関する転居費用補助制度、社内旅行(2005年は石垣島)
応募方法 履歴書、職務経歴書を下記E-mailまたは住所宛に郵送にてお送りください
求人情報検索サイト@type< http://type.jp >からも応募可能です

会社概要

事業内容 Oracleの運用管理ツール「Performance Insight」や、情報漏洩監視システム「PISO」の開発・販売を始め、Oracleのパフォーマンスチューニング、データベース設計から運用まで一貫したコンサルティングを国内外に提供
【PISO】 監査証跡となるデータベースアクセスの記録、警告、追跡調査を可能にする情報漏洩監視システム。検知した不正アクセスから、わずか2クリックで不正アクセスの詳細確認が可能な点や、大量のアクセスログから疑わしいアクセスの高速追跡・調査を可能にしました。発売わずか1年半で60社、約150ライセンスの導入実績を誇ります
設立 1995年7月7日
資本金 8,985万円
売上高 7億5,000万円(2005年12月実績)
従業員数 50名 平均年齢:33才
代表者 代表取締役 小幡 一郎

